

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:37.

人工股関節置換術患者の退院に向けた生活調整

佐藤菜穂美、原谷俊治、大坪恵美、杉本沙織、外川恵子

人工股関節置換術患者の退院に向けた生活調整

8階西ナーステーション ○佐藤菜穂美、原谷 俊治、大坪 恵美、杉本 沙織、外川 恵子

【目的】

A病院では先行研究で、THA患者の退院指導にDVDを使用し可視化することで生活調整を具体的にイメージ化できるという結果を得た。今回、退院に向けた生活調整と患者の行動変容を自己効力理論を用いて検討する。

【対象】

平成20年8月から10月に入退院した変形性股関節症患者で、THAを受けた患者5名。

【方法】

手術前に、術直後の動作の注意点をまとめたVTR視聴やパンフレットを用いてADL訓練を行う。ADL獲得後には、DVDを視聴する。患者、医師、理学療法士、看護師で退院後の生活の問題点や疑問点について検討する。

【結果・考察】

生活調整を具体的にイメージ化するためにVTRやパンフレット、DVDを用いることは「代理的経験」となり、獲得したい動作や具体的な生活調整の方法を明確化できた。ADLを獲得することにより「自己の成功経験」

を重ねた。看護師はできている部分を認める「言語的説得」を行い、身体症状や不安を軽減するために「生理的・情動的状態への介入」を行った。また、患者、医師、理学療法士、看護師で目標や疑問点を共有して解決した結果、患者の自己効力感を高めた。脱臼の経験があった患者は再脱臼の不安軽減に向けた「生理的・情動的状態への介入」と励まし「言語的説得」を行い、退院に向けて自己効力感を高めることができた。THAを行った夫がいた患者は生活を見ていたことで「代理的経験」を強化していた。反対側の手術を行った患者は、自信を持って日常生活を送っていた経験が「成功経験」を強化していた。

【結論】

THA患者の退院に向けた生活調整において、1. 成功経験であるADL獲得、代理的経験であるVTR・パンフレット・DVD視聴、言語的説得である励まし、身体症状や不安の軽減を行う生理的・情動的状態への介入により自己効力感が高まった。2. 患者、医師、理学療法士、看護師で目標や疑問点を共有して解決することで自己効力感が高まった。